

06

June
2025

[月刊] キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年6月1日発行(毎月一回1日発行)第810号

出会い・本・人

阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』(1988年、筑摩書房)
今井小の実

特集シリーズこの三冊!

「贖罪」を問う、この三冊! 最相葉月

本・批評と紹介

日本キリスト教団出版局編

説教黙想アレテイエ叢書 創世記1―28章 朝岡 勝

東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報 2025 高橋 原

山口雅弘著 「生きる」をいつくしむ 富田正樹

犬養光博著 改訂新版 筑豊に生きて 崔 善愛

関西学院大学神学部編

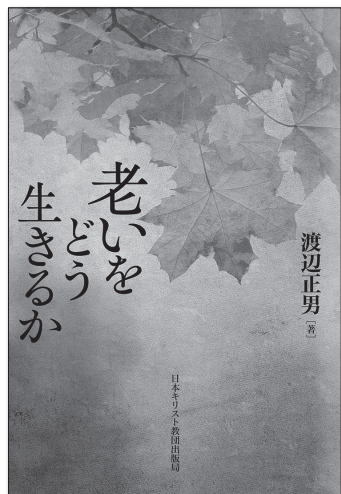
関西学院大学神学部ブックレット17 明日の地域と教会 伽賀 由

佐々木哲夫編 宮城学院に連なる人々 藤野雄大

朝岡 勝著 説教の聴き方 川崎公平

◆ 既刊案内

◆ 書店案内



老いを どう生きるか

渡辺正男

2025年5月19日刊行予定

米寿を迎える熟練の牧師が、老いゆく自分に向き合いつつ、老いの生き方を聖書に聴き取る。健康もお金もちろん大事。でもそれ以上に、真に支えになるのは、自分自身と親しい者を委ねることのできる主イエスの福音であることを、やさしい言葉で伝えていく。

◆四六判 並製・176頁・定価2,200円

「老い」について考える関連書／好評発売中

『老いと祝福』 石丸昌彦 定価2,420円

『信仰生活ガイド 老いと信仰』 山口紀子 編 定価1,540円

『ナウエン・セレクション 老い 人生の完成へ』 ヘンリ・ナウエン／ウォルター・ガフニー
原みち子 訳 木原活信 解説 定価1,980円

『支えのみ手「老い」について聖書からきく』 穴戸好子 定価1,430円

『夕べになっても光がある「老い」について聖書からきく』 穴戸好子 定価1,540円

教会は初めての あなたへ

32人の牧師からの手紙

小林よう子 編

2025年5月23日刊行予定

月刊の伝道新聞『こころの友』で好評連載中の「あなたへの手紙」の書籍化。初めてキリスト教や聖書、教会に出会う方でも読めるようキリスト教用語を使わずに、キリスト教の教えや教会について32人の牧師が手紙形式でわかりやすく語る。

◆四六判 並製・112頁・定価1,430円





阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』

(1988年、筑摩書房)

今井小の実

私の人生を変えた一冊は、『自分のなかに歴史をよむ』です。中世ヨーロッパ史の研究者阿部謹也氏が彼の探求心の出発点と研究の歩みを易しい文体で伝えた本ですが、私にはこの本に導かれた二つの経験がありました。

一つ目は、20歳の時の欧州旅行です。生まれて初めての欧州は新鮮でその経験は強烈でした。最初に降り立ったローマ、最も長く滞在したフィレンツェ、クリスマスのイルミネーションに彩られたパリ。旅をする中で、キリスト教に対する信仰が文化や芸術にしみこみ、人々の生活にも深い影響を与えているのを目の当たりにしたことで、欧州の歴史とキリスト教に深い関心を抱くようになりました。

二つ目は、旅行の後、友人の家の書棚で見つけた『中世の星の下で』との出会いです。それは、阿部謹也氏による中世ヨーロッパ社会に関する論集で、当時の民衆の生活を描き出した内容にわくわくしたのを覚えています。

そしてこれら二つの経験が、二人の子どもを育てながら大学院に進学した頃に、『自分のなかに歴史をよむ』に引き合わせてくれたのでした。入学当初の研究テーマは英国救貧法の歴史で、その背後にあったのはキリスト教に支えられた慈善と世俗的な立法救貧法の関係への関心でした。しかし、次第に学問にブランクのあった私に中世英語を読み解くことは困難だとわかり、この本になぞらえ、あらためて一から、自分のなかに歴史をよむ。作業を試みたのです。そうすることで、私が経験したのと同じように、大正時代の女性も子育てと自己実現の狭間で葛藤を続けていたことを知り、なぜこの問題が現代まで解決されることなく続いているのか研究してみたいと思いました。こうして、自らの問題意識から出発したテーマは、研究のモチベーションを高め、博士課程に進む道を開いてくれました。私にとってこの本は、歴史研究の楽しさに気づかせ誘ってくれた大切な一冊です。

(いまい・このみ 関西学院大学教授)



▼シリーズ この三冊！

「贖罪」を問う、この三冊！

最相葉月

(さいしゅう・はづき…ノンフィクションライター)

統一教会（現・世界平和統一家庭連

合）は「未証し勧誘」といつて、正体を隠したまま勧誘する手口を使います。

じつは私も二十代のときに久しぶりに再会した同級生に、勉強会という名目で教団の施設に連れて行かれたことがありました。週刊誌で霊感商法の問題が盛んに報じられていたためすぐに気づいて立ち去りましたが、なぜ自分がいとも簡単について行ったかといえ、路上で熱心にチラシを配る彼女を見て、少しでも力になればという気持ちか

らだったと思います。

でもその後、脱会のために動いたわけではありません。彼女のためという、今考えれば傲慢な自分自身に気づき、内心忸怩たる想いで昨今の教団に関する報道を見守っています。

意志強ナツ子の漫画『るなしい』（講談社「小説現代」二〇二一年三月号〜連載中）を読み始めたのは、ちょうど東京地裁が統一教会の解散命令を決定した日でした。すでに話題作なのでご存知の方も多いでしょう。誤解を

恐れず要約すると、「火神の子」として育てられ、宗教的掟に縛られて生きる女子高生、郷田るなどその同級生たちを中心に展開する宗教サスペンスです。

祖母が営む鍼灸院で鍼灸師として働くるな、自分の経血を用いた「処女のモグサ」を学校に持ち込み、同級生を施術してお金を稼いでいます。「宗教の人」といじめられているところをケンシヨーに助けられ、るなは彼に恋をしてしまいます。

るなが信仰する火神教は恋愛禁止で、閉経まで処女でいなくてはならないという掟があります。にもかかわらず彼に告白してあっさりふられてしまったるなは、その怨みから復讐を決意、ケンシヨーを信者ビジネスに取り込もうとします。ケンシヨーもケンシヨーで、るなの商才に惚れ込み一緒にビジネスをやりたいと望むように。るなは了解

しますが、その代わり、家族との縁を手放すよう折れと条件をつけます。

著者はこの作品を描くにあたり、ホストに大金を貢ぐ女性や新興宗教の話を参考にしたそうです。自己実現の夢に期待して大金を捧げる女性の姿や、ケンシヨウの口車に乗せられて高齢者が多額の投資をしてしまう様子は、まさに違法ホストクラブやカルトの手口そのものです。

るなは幼い頃から家族と離れて祖母と暮らしています。なぜそんな運命を生きているのか。るなの兄はケンシヨウに語ります。

「るなは火神の医学の避雷針で人柱で生贄で、そのおかげで僕たち家族は食べていけるんだから、今はもう感謝しかない」

どういうことでしょうか。信者を手玉にとっているように見えて、るなは犠牲者なのでしょうか。

本稿執筆時点で物語は完結していません。ただ歪んだ信仰心と人間の欲望によって破滅が近づいていることは想像がつかます。第1巻冒頭でるなが収監されている場面が描かれていたため、この先は事件化するのでしょうか。獄中のるなの顔に差す薄い光に希望を感じたのですが、さて……。

〇〇が犠牲になってくれたおかげで、自分は生きている——。信仰をもたない者でも使う表現ですが、拙著『証し日本のキリスト者』の取材で全国のキリスト者にインタビューしたときはさすがに何度も耳にしました。こちらは一般用語の「贖罪」ではなく、イエスは私たちの罪を背負って死んだという、キリスト教の「贖罪信仰」です。その起源や広がり、とくに西方教会の影響が強い日本の教会の特性についてはすでに専門家が検証しているためここで

は深入りしませんが、教会を歩く中で、これが災禍の犠牲者に置き換えて語られるのを知って驚きました。

ある人は言いました。災害や事故、戦争、ホロコーストまで、なぜ何の罪もない人が犠牲になるのか。彼らはイエスのように、人間の罪深さに気づかせるため自ら名乗り出た天使たちではないか。

新型コロナウイルスで多くの犠牲者が出ていた頃も、自称預言者が現れ、悔い改めよ、これは終末のしるしだ、神のメッセージだと言いました。多くの教会が混乱する中、取材に応じてくださった日本聖公会北海道教区の笹森田鶴主教の言葉が印象に残っています。曰く、そのような問いはキリスト教に根強くあるが、自分はそのに立たないことがとても大事だと思う。なぜならそれは神に答えを出せといっていることだから。神のメッセージを探すの

ではなく、神はこの世界でどのように働こうとされているのかを見ていく、と。

はっとしました。なぜ神はと問うのではなく、神ならどう働くのかを問うことの大切さ。笹森主教がそのとき紹介してくださったのが、イギリスの聖書学者N・T・ライトの『神とパンデミック コロナウイルスとその影響についての考察』（鎌野直人訳・2020／あめんどろ）でした。コロナ下で「タイム」紙の求めに応じて書かれた文章を中心に、先述したような「すぐ人の心に浮かんでくるその場しのぎの反応に抵抗する必要」から書かれたものです。

なぜ神は走り寄って解決してくれないかと問われたとき、聖書に沿って何を語るべきか。ライトは、イエスの十字架を語るなら、山上の説教で示された「神の王国」も語らねばならないと

言います。神の王国はすでに始まっており、神は人とともにすでに働かれています。私たちの使命とは、「世界が痛んでいるその現場で祈る、それもことばにならない祈りを祈ることです」（傍点ママ）と。

本書は一般紙に寄稿された文章をまとめたもので、神の王国の到来を十字架と結びつけて理解することの重要性や、人と共に働く神の話などは、ライトの著作に詳しい読者にとって目新しいものではないかもしれませんが、でもこの先何度も、容易には答えの出ない事態に直面するはずです。手元に置き、繰り返し読み返したい一冊です。

話は冒頭のエピソードに戻ります。文化庁の『宗教年鑑』を見ると、統一教会はキリスト教系の新宗教に分類されています（キリスト教界では異端とされますが）。経典『原理講論』は旧

約聖書のアダムとエバの物語を独自に解釈し、日本を「エバ」国家と位置づけ、「アダム」国家である韓国に従属すべき存在だと定めています。

背景にあるのは、植民地支配と当時行われたキリスト教徒への激しい弾圧です。日本人の献金はその贖いであり、人類を堕落させたエバと同じエバ国の女性性はアダム国の男性に尽くし、家族に尽くして贖罪すべきと教えます。キリスト教らしき言葉を巧妙に取り入れ、信者の罪悪感を揺さぶります。私の同級生もその一人だったのでしょう。

元首相銃殺事件を受けて緊急出版された、島蘭進編『政治と宗教 統一教会問題と危機に直面する公共空間』（岩波新書・2023）は、このように日本人の贖罪意識につけこんで財をなした教団を理解する一助となります。本書によると、統一教会と政治の関係には三つの段階があるそうです。



『るなしい』

意志強ナツ子：作

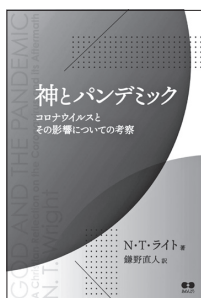
講談社

2021 年～

B6 判

792 ～ 880 円

「反共」で日本の右派政治家と結びついた一九六〇～八〇年代、合同結婚式や霊感商法、多額の献金が問題視される一方、政治家への秘書派遣などが始まった一九九〇～二〇〇〇年代、政治家との癒着が濃厚となった二〇〇〇～二〇一〇年代です。本来、一人ひとり



『神とパンデミック——

コロナウイルスとその影響

についての考察』

N・T・ライト：著

鎌野直人：訳

あめんどう

2020 年

四六判 108 頁

1,100 円

の生き方や倫理観を支えるはずの宗教が勢力の拡大を企み、政治的関与を深めていく過程がわかります。
このほか、創価学会の変遷と自公連立政権の誕生、フランスのライシテと呼ばれる政教体制とセクト規制、米国の政教分離と宗教右派の影響など、公



『政治と宗教——統一教

会問題と危機に直面する公

共空間』

島菌進：編

岩波新書

2023 年刊

新書判 242 頁

924 円

共空間が直面する政治と宗教の関係を各分野の専門家が読み解きます。「カルト」の話は関係ないといって思考停止するのではなく、境界は紙一重であること、にもかかわらず、なぜ自分は踏み止まることができたかを考える手がかりにもなるでしょう。

創世記を救済史的文脈で捉えて 語るための説教者必携の書

〈評者〉 朝岡 勝



説教黙想アレテイア叢書

創世記 1—28 章

日本キリスト教団出版局編



『説教黙想アレテイア叢書 創世記』の出版を説教者の一人として心から感謝します。

本書では創世記1章から28章が、14名の執筆者により27回に分けられて記されています。叢書化にあたって加筆されているとのことで信徒が読み手であることも想定されているでしょう。聖書の傍らに本書を開き、じつくりと創世記を味わいたいと思います。

まず熟読すべきは小友聡先生による「序論」です。そこでは創世記が「終末の『神の国』の到来をほのかに見通す」「救済史的ベクトル」(7頁)を持ち、モーセ五書の冒頭に「約束」として置かれるゆえに「すでに『成就』をも暗に指し示すことになる」(同)書物とされ、「創世記を語るということは、創世記をどのようなより大きな救済史的文脈で捉えるかという聖書神学的展望なしではありえな

い」(同)と言われます。創世記を読む構えとしたい言葉です。

創世記解釈のポイントの一つは「創造の歴史性」の理解でしょう。神話的表象と読むか歴史的现实と読むか、執筆者の多くが前提とする批評学的な立場で読むか聖書の十全性を重んじる保守的な立場で読むか、その際にすべてを字義通り読むか啓示の中心性を捉えて読むかなど様々な解釈の立場がありますが、「創造の歴史性」が「終末の歴史性」を担保し、それでこそ「救済史」のリアリティを展望する読み方が可能になると思われます。

評者が興味深く読んだのは「原初史」の区切り方です。「創世記の11章までが原歴史として扱われることもあるが、むしろ洪水までが原歴史である」(小泉、88頁)との理解もあれば、「バベルの塔は、原初史の最後を飾るエピソード

である。……〔他方〕この塔は信仰の父と称されるアブラハム（アブラム）が神によって呼び出されるその舞台設定を仕上げる役割を果たしている」（葛田、89頁）との理解もあり、「彼（フォン・ラート）は、原初史と呼ばれる創世記1章から11章の結末が、11章ではなく、12章1～3節であると考え。世界の始まり、人類が罪に陥ってしまう歴史の結末は、アブラハムから始まる救済史、救済のはじまりであると言うのである」（楠原、101頁）との理解も示されま

す。執筆者の聖書全体への展望が見て取れる箇所です。

またハガル・イシュマエル物語を巡るキリスト論的解釈（本城、130頁以下）、ソドムの出来事を巡る道徳主義的解釈への警鐘（高橋、166頁）、イサク奉獻の山行についての深い黙想（小泉、202頁以下）から示唆を受けました。

評者もかつて創世記の連続講解説教に取り組み、全92回のうち28章を扱ったのは61回目でした。その経験からすると本書で扱わない箇所（5章、10章、11章後半、12章後半、14章、19章後半、21章後半、22章後半、25章前半、26章）を読んでみたいとも思いました。しかし「説教黙想」が本来教会闘争の中で奮闘する説教者の助けであったことを思うと、本書は説教準備の「あんちょこ」でなく、「今、この時」に緊張感をもって聖書と向き合う際の対話の相手とするのが相応しいでしょう。

なおこの拙文が読まれる頃には『創世記29―50章』も出版されているはず。故大島力先生の論考「創世記の説教」も含め、心待ちにしています。

（あさおか・まさる 日本同盟基督教団多磨教会牧師）

（A5判・二六四頁・定価三三二〇円・日本キリスト教団出版局）

ルピナス・ヴァレーへの道

森本佳代／森本二太郎



夢をあきらめないで
理想の庭作りとそこでの生活に取り組む、森本佳代さん、二太郎さん、潤太さんの家族。荒地から今やルピナスが花咲く美しい庭となったルピナス・ヴァレー創造の物語。

A5判並製・80頁・定価1760円

涙の夜 喜びの朝

受難・復活・聖霊降臨

日本キリスト教団出版局編



『信徒の友』に掲載された受難から復活、聖霊降臨に関する祈りやメッセージを精選。主の受難に心を寄せ、復活の勝利を喜び、聖霊を求めていくために。

四六判並製・112頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

＋本・批評と紹介

「死生学」の最前線を展望しつつ、 身近なところから光をあてる

〈評者〉 高橋 原



死生学年報 2025
葬送と墓制の現在
東洋英和女学院大学死生学
研究所編



「死生学」という名前がついた講座や学科を持つ大学には、東京大学、東北大学、上智大学などがあるが、その先駆けとなった東洋英和女学院大学の死生学研究所による『死生学年報』が、通巻第二十一号を迎えた。日本の死生学は、医療やケアの分野と宗教学隣接領域の研究者が合流して、現代社会の諸問題への対応を考えてきたが、そのもつとも新しい関心はどこに向かっているのだろうか。

ひとつの焦点は「看取り」である。一九七七年に病院死が在宅死を上回って以来、「穏やかな」とか「自分らしい」とか形容される望ましい死に方は、常に人々の関心の的であり続けている。本書の巻頭には、普通の人の死を題材とするドキュメンタリー作品を世に問うた二人、映画『エンディングノート』（二〇一一年）の砂田麻美監督と、『あなたのおみとり』（二〇二四年）の村上浩康監督による対話

的寄稿が置かれ、〈看取りの文化を構想する〉という特集への導入となっている。

特集の中で、山田千香子は五島列島の調査に基づき、医療福祉の資源が乏しく、一見不便な離島で、「自宅死亡率」が高く、「顔の見える関係」の中で暮らす高齢者の生活満足度が高いことを示す。また、浮ヶ谷幸代は、臨床宗教師が常駐し、「自宅に限りなく近い形」で運営されるシェアハウス「アミターバ」（大垣市）を素材に、人生の幕引きのあり方について考察している。いずれも、先進的な事例の中に、孤独死が問題視され、七割が病院で死ぬという都市生活の中の死を考えなおすヒントを求める試みである。

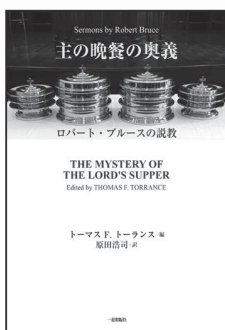
本書が特集している死生学のもうひとつの焦点は、〈葬送と墓制の現在〉である。この二十年ほどのあいだに、「葬式はいらない」という主張が現れたり、「自然葬」や、



主の晩餐の奥義

ロバート・ブルースの説教

トーマス・F・トーランス 編
原田浩司 訳



主の晩餐に与る意味、
目的、その効果は何か？
宗教改革期に一大争点
となった聖餐論。
1589年にブルース牧師が
語った5篇の説教。400年以
上、スコットランドで読み
継がれている古典的名著。

A5判・並製
定価【本体2,200＋税】円
ISBN978-4-86325-165-6



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「墓じまい」がメディアに取り上げられたりしてきた。東日本大震災はきちんとした弔いの重要性について再考する機会となり、「葬式仏教」を再評価する流れもあったが、一方で、「家族葬」という言葉がすっかり定着し、コロナ禍以降は葬儀の簡略化に拍車がかかっているとも言われる。人が死ぬと僧侶を呼んで通夜・告別式でお経を聞き、火葬場では「これが喉仏です」などと説明され、遺骨を寺院や霊園にある自分の家の墓に収める、というのが、型通りの弔いのイメージであろうか。しかし、「〇〇家」の墓石の下空洞に遺骨を収める「カロート式家墓」は実は関東大震災後に現れて昭和期に普及した新しいもので、しかもすでに過去のものとなりつつある（問芝志保論文）。火葬場での「収骨」は日本に独特な習慣だが、遺族の心の安定

にとつて極めて重要な意味を持つ「儀式」である（坂口幸弘・赤田ちづる論文）。そもそも「葬式仏教」が批判的に見られてきた背景には、一九六〇年代以降に民間企業が墓地開発に乗り出し、寺院の側がそれに乗ったという事情がある（辻井敦大論文）。これらは当たり前のこととして見過ごしている事実之光を当てる論考である。

他にも、宗教学者岸本英夫の死生観（宮嶋俊一）、臨死体験研究（大門由依）、ファッションデザイナーのアレキサンダー・マックイーン（岸根紗葵）が死生学の問題として取り上げられている。文献紹介もあり、死生学の最前線を展望しながら生と死の問題を身近なところから、ちよつとアカデミックに考える手がかりとなる一冊である。

（たかはし・はら＝東北大学大学院教授、死生学・実践宗教学専攻分野）
（A5判・一二三頁・定価二七五〇円・ヨベル）

イエスと一緒に飯を食べよう

〈評者〉 富田正樹



「生きる」をいつくしむ
ガリラヤに生きたイエスの
「共食と共生」
山口雅弘著



地上は暴力に満ちている。

その暴力により、多くの人が戦闘や殺戮で命を奪われ、困窮の中で飢え渴き、尊厳を奪われ、恐怖と不安に押し込められている。

この暴力は、イエスが生きていた時代、社会にも見られるものであった。しかしイエスは、その暴力に抗って生き、「共食」によって人が共に生きてゆけることを示した。

本書は、イエスがどのように生まれ育った家を飛び出し、彼の同伴者・協働者たちと、どこを旅し、何を教え、伝え、どんな人と出会ってどのように関わり、誰と何を食べたのか。それを、聖書学、歴史学、考古学、社会学、比較文化人類学などの知見を援用しながら、「人間学」の立場から『推測』に基づき（12頁）探求している。

ここで描かれるのは、多くの神学書や宗教教育が示して

きた護教的なイエスではない。むしろ私たちがこの世の悪の「黙認（黙殺）の加害者」（3頁）にならないために、自らを厳しく問うことを迫るイエスである。

しかし、そんなイエスの言葉と活動の根底にあるのは、「共食と共生」である。つまり「共に楽しくご飯を食べること」（63頁）に、イエスの原点があるのだ。そして、その生き方は必ずしもイエス・オリジナルではなく、ガリラヤ地方の民衆の逞しい生き方にそのルーツがあった。

イエスはガリラヤの貧しい民衆と共に、「食べ、飲み、笑い、歌い、踊った」（103頁）。それがイエスの生き方と思想であり、社会的弱者に生きる力を与えた。人びとはそんなイエスの生き方を「胃袋で知った」のだ（197頁）。

そしてイエスは、社会的弱者や罪人を「非人間化」する「社会的・宗教的権威・権力者」たちを激しく糾弾した結

果、「晒し柱（さらしばしら）」につけられて殺害される。

しかし、そんな彼の生き方に共感・共鳴した、女性たちを初めとする最初期のキリスト者たちは、彼の「共食と共生」の生き方に倣って生きるようになった（182頁）。なぜならイエスは、決して孤立して闘う人ではなく、「共食」によって「連帯」する人だったからである（211頁）。そして、その「共食」による「共感・共苦」の生き方は、今風に言うならば、まさに「ヒューマニズム」であり「ホスピタリティ」である（228、230頁）。

そして、今もイエスは各自の心に内在し「生きている」。「今」「イエスの協働者」となって生きる。それが「復活」なのである（258、261頁）。

本書は、イエスに倣う「共食と共生」の社会を体現でき

ずにいる、現代のキリスト者に対する「警告」でもある。

本書のタイトルは「生きていること」（名詞）をいつくしむ、ではなく「生きる」（動詞）をいつくしむ、となっている。「生きていること」と客観的に眺め、過去の人物としてイエスを研究するのではなく、イエスと共に今を「生きる」。

「神の国の宴」（134頁他）を具体化し、共に食べ、飲み、笑い、歌い、踊る。そして地上の暴力に抗って平和を生み出し、今や効力を失った贖罪論や形骸化した聖餐論などぶつ飛ばして、すべての人と「受容」し合い、「今」イエスと共に「生きる」をいつくしみ合いながら、喜びの人生を生きてゆこう。

そんな生き方へと、本書は誘っている。

（とみた・まさき 同志社香里中学校・高等学校聖書科教師
（新書判・二八八頁・定価一六五〇円・ヨベル）

M・ロダール 大頭眞一訳

神の物語上下

1巻本から都合4刷目！



藤本満氏評：独特な魅力が溢れている本。キリスト教神学全体を、聖書全体を物語ることによって説明している。難しい神学を私たちの手の届くところにまで解説してくれている。本題と課題に向き合える。

2刷上 新書判美装・二二〇頁・一七六〇円
2刷下 新書判美装・三〇四頁・一七六〇円

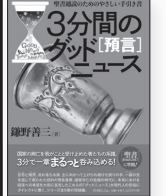
6月上旬出来！

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

ヨベルの重版案内

鎌野善三「著」 ◎聖書通読のためのやさしい手引書

3分間のグッドニュース「預言」



梅津順一氏評：本書には、聖書通読の手引きと折りて献身の手引きの二側面があります。聖書の歴史的背景は詳しく、みことばが読者の新興を顧み、生き方を導くように工夫されています。一日一章、聖書と対話して生きることが、幼子が両親の言葉に身についていくことに似ています。

3刷出来 A5判美装・二七二頁・一七六〇円

荒野を歩きつづけたひとりの 牧者・その苦悶と祈り

〈評者〉 崔 善愛



改訂新版
犬養光博著
筑豊に生きて



本書の著者・犬養光博牧師は一九三九年大阪市に生まれた。まもなく八十六歳になられる。同志社大学神学部時代、筑豊（福岡県）のこどもたちに出会い、その輝く笑顔にひきこまれ、その地に「就職」する決意をされた。本書には、二十歳代だった犬養牧師が、いかにして苦しむ人の隣人たれるか、模索し苦悶する信仰の軌跡が記される。

一九六〇年代、その地はまさに荒野だった。今では三池炭鉱などが「明治日本の産業革命遺産」に登録され、炭鉱は日本の繁栄を導いた栄光の歴史と語られる。しかしその「栄光」は誰のものだっただろうか。その栄光のもとでどれほどの犠牲が強いられただろうか。本書を読み進めてゆくと、まるで戦場の跡地に立たされているような思いすら抱くのだ。

かつて二八〇もの炭鉱がひしめきあった筑豊。著者が

「就職」した地には「福吉炭坑」があった。福吉は、小山が真ん中にあり、その両側の谷間に開かれた炭坑で、そこにある炭住に最初の八年間住んでおられる。閉山によって失職した人たちは生活保護を受給せざるをえなかった。犬養牧師は本書の基になった『月刊福吉』をガリ版で刷り、それを手に町のすべての家、九二戸（約四六〇人）の門戸を叩き、一軒一軒まわった。伝道所に人を招くのではなく、自ら他者のもとに赴き、「出会わせていただく」。これこそが犬養牧師の牧会だった。

私の家族も同時期のまさに一九六〇年、父・崔昌華牧師が北九州市小倉北区にある在日大韓キリスト教小倉教会に赴任した。教会には筑豊の炭鉱に強制連行あるいは徴用された朝鮮人の家族らが集まっていた。

「日本人と同じ部屋に寝るのはこわい」と、牧師の研修

旅行で同室になった犬養牧師に父は言った。父だけでなく教会員の在日一世は日本統治時代の辛い体験を負っていたため、日本に住みながら日本人を信じることができないというトラウマを抱えていた。がしかし教会員も父も、犬養牧師を誰より信頼しつつ共に歩むようになっていった。その姿は私にとって何ものにもかえがたい宝であり、希望だった。

にもかかわらず私自身は、犬養牧師が何に悩み、何を喜びとしていたのか、知ろうとしなかった。そしてはじめて「月刊福音」（本書）で触れることができた。

閉山後の「ヤマ」に残されたのは、縦横無尽に地下奥深くまで石炭を掘り出しつくされたあとの穴だ。それにより地面が崩落し、水道もままならず、その「鉱害」を「復旧」することが当時の大きな課題だった。その「復旧」の一端をも担いつつ、犬養牧師は牧会だけでは生活できず、トラック運転手、土建作業員などの肉体労働を続けながら並行して地元のこともたちのために「そろばん教室」「学習塾」、そして妻の素子さんは「保育園」を開き、奉仕した。

現在は長崎県松浦市に転居しておられるが、「犬養の思いは筑豊にある」と素子さんがこぼされる。

ただひたすらに「他人の苦しみを自分の苦しみにできるか」とご自身に問いつづけ、戸惑いや嘆きを吐露し、祈る。その犬養牧師の「告白」に接するこの一冊は、私に問いかける。「同じ北九州市に住みながら、あなたはどこにいたのか」と。

もつとも苦しいひとのところに自ら赴き、友となり隣人となる。その厳しさと喜び。

多くの人に読んでいただきたい。

（ちえ・そんえ||ピアニスト）

（B6判・二八八頁・定価二二〇〇円・いのちのことば社）

制度ではなくアイデンティティ の見直しから

〈評者〉 伽賀 由



関西学院大学神学部
ブックレット17

明日の地域と教会

第58回神学セミナー

関西学院大学神学部編



日本のキリスト教界隈で存在感の薄いメノナイト教会の筆者にとって、同労者である他のキリスト教会・教団教派の動向や情報を知るきっかけの一つに、キリスト新聞の松谷信司氏のSNSがある。今回そのYouTubeで大石周平氏のインタビューを拝見し、本書を知った。

本書は「明日の地域と教会」をテーマにして三つの講演、浅野淳博氏の新約神学と橋本祐樹氏の現代宣教学の二つの神学視点による講演に続き、大石氏の多摩地域教会の取組みの紹介を基調としている。

浅野氏は本書のテーマとして第一コリント書を取り上げ、その会食問題を通して教会が有機的に地域社会とつながる時、パウロは教会が何を大切にし、何に柔軟に対処すべきなのかをていねいに解き明かす。「食べる」という人間にとって極めて基本的な生活行為の中に、当時の地域社会で

常識であった差別意識が如実に現れていた。このことが教会に入り込むことをパウロは阻止しようとした。神の共働者である信仰共同体すなわち教会のそのアイデンティティは平等なのであって、「パウロはこの問題を〈信仰〉の事柄ではなく〈良心〉の事柄として扱っていた」と明かす。さらにパウロは「洗礼と主の晩餐」を教会のアイデンティティの根拠として挙げ、このことを明確に維持することに心を配っていたと述べる。

続く宣教学的視点において橋本氏は、キリスト教も「もはや停滞ではなく衰退」という言葉で語られる現状があるとしながらも、いくつかの文献や統計学的数字から現代社会の無縁化する社会構図の中で、キリスト教会が大切にしてきた人と人との関係性は社会で大いに役立っており、それは宗教社会学的に認められているという。神の宣教に参

与する教会として、この地上でのあり方・務め方が統計学上の数字にこそ表れてはいないが、しかし教会が地道にしてきた貢献が、互酬性の概念をはるかに超えて役立っているとの言葉に、日本のキリスト教会の持つ底力を感じ頼もしかった。

こうした聖書神学的講演と宣教学的講演に続く多摩地域教会の紹介は、日本キリスト教会の組織事情にまつたく疎い筆者だが非常に考えさせられた。二つの異なる教会が「吸収合併」ではない方法を探る。これが簡単なことではないのは明らかだ。どの組織も機構改革しようとする制度の見直しから始めようとし、それは教会も同じではないだろうか。

しかし多摩地域教会は制度ではなく、教会とは何か、自

分たちの教会に適した枠組みはどのようなもので、どうあるべきか、その働きと務めを考える話し合いと祈りを重ねる。その間に多摩川の氾濫という水害とコロナ禍を経ながら、徐々に膨らむその話し合いが、常に教会のアイデンティティに基づくものであったのは確かだと推察する。なぜならまさにそれは初代教会がしてきたことであり、書簡はそれを示しているからである。

筆者は本書を「外からの言葉」として聴いた。教派組織を問わず「聖なる公同の教会を信ず」と告白する教会が、この目まぐるしく変化する社会で衰退の打開策を考える手立ての一つとして、教会で共に読みたいと思ったからである。

(かが・ゆかり) 日本メソナイト帯広キリスト教会牧師
(A5判・一二五頁・定価一七六〇円・キリスト新聞社)

増補改訂版

新約聖書の本文研究

伝達・改悪・回復

B・M・メツガー／B・D・アーマン 橋本滋男／前川裕訳



私たちが手にする新約聖書の本文は、どのように現在の形となったのか。本文の元となる写本や本文批評について、最新の研究を踏まえて解説する。原著第4版より訳出。
A5判上製・448頁・定価6600円

説教黙想アレティア叢書

日本キリスト教団出版局 編

創世記 29―50章



創世記の重要単元の説教黙想集。下巻はヤコブのハラシ到着から故郷への帰還、ヨセフ物語の大団円までと、大島力師の論考「創世記の説教」を再録。
A5判並製・236頁・定価3520円

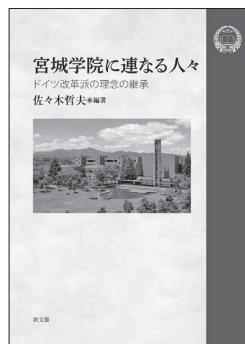
日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ㊟03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

創立初期の生徒・卒業生の 活動を知る多様な考察

〈評者〉
藤野雄大



宮城学院に連なる人々
ドイッ改革派の理念の継承
佐々木哲夫編



建学の精神をどのように具体化・実質化していくか。これはキリスト教学校に務めるキリスト者にとって、共通かつ永遠の課題であろう。建学の精神とは、キリスト教学校のよって立つ基盤であるが、学校内外の様々な要因によって、常に有名無実化する危険性を孕んでいる。そのため、建学の精神の空洞化を防ぎ、キリスト教学校としての実質性を保つことが求められる。そして、各校の宗教主任（チャプレン）やキリスト者教員は、その中心的役割を担うことになる。評者自身も、キリスト教学校に務める者の一人として、そのような課題意識を抱いてきた。

そのような折、宮城学院から『宮城学院に連なる人々——ドイッ改革派の理念の継承』（教文館、二〇二五年）が出版された。同書は、同院の現理事長・学院長である佐々木哲夫氏を編著者として、各論を執筆した教職員によ

る共著という形式になっている。同書では、建学の精神を「まさに建物を支える土台のように学校の存立や伸展の要」として捉えており（三頁）、同書の目的は、『建学の精神』や『スクール・モットー』を視座に創立理念の継承を概観しようと試みる」とこととされている（四頁）。

宮城学院は、一八八六年に合衆国ドイッ改革派教会のミッションによって創立され、以来、『神を畏れ、隣人を愛する』をスクール・モットーとして、仙台の地において、今日に至るまで一貫して福音主義キリスト教に基づく学校教育を行い、「人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成すること」を建学の精神としてきた。この建学の精神に従い、仙台、宮城、そして東北各県を中心に、地域社会に貢献する数多くの人材を輩出してきた。また評者が務める東北学院とは、同じ教派的背景を持ち、共に宮城県仙台

市に拠点を置くこともあり、建学以来、深い関係を保ってきた。

同書の内容は多様性に富んでいる。合衆国ドイツ改革派教会との歴史的つながりや、資料室の役割に関する論考に始まり、同院第七回卒業生の顔写真の目歯比率からの人物特定というユニークな考察や、バイブル・ウーマンとしてキリスト教伝道に活躍した同院卒業生の活動紹介、学生の文学活動やキリスト教活動についての考察などが収録されている。いずれも、それぞれの著者独自の関心・視点に基づいており、読み応えのあるものになっている。同書を通して、宮城学院の特に初期の歴史における学生生活や、卒業後の学生たちの活躍の一端を窺うことができる。

一方で、記述の対象がやや初期の歴史に偏っている印象

は拭えない。現在まで一四〇年近い歴史を重ねてきた宮城学院の学生たちのライフ・スタイルの変遷や、卒業生の活躍、また建学の精神に基づく地域社会との結びつきや社会貢献などを、より幅広い年代を通して知りたかったというのが、率直な感想である。この点が惜しまれる。

とは言え、同書は、宮城学院関係者および同窓生はもとより、東北地方の諸教会、キリスト教学校に連なる者、さらに全国のキリスト教学校関係者にも貴重な示唆を与えてくれるものである。キリスト教学校における自校史の編纂のあり方を考える上でも一読をお勧めしたい。

(ふじの・ゆうだい) 東北学院大学文学部総合人文学科准教授

(A5判・一五八頁・定価二二〇〇円・教文館)

ヨベルの新刊案内



金子晴勇 著
キリスト教思想史の例話集 II
命題集

発売同時反響拡大!

キリスト教思想史を学ぶすべての人に、あたかも絵画を観るように理解できる例話集成!

第二弾! 新書判美装・三三六頁・一五四〇円

I 「物語集」【既刊】／II 「命題集」【新刊】
III 「共生」の神秘【次回】／IV 「愛のかたち」
V 「試練の物語」／VI 「霊性の輝き」

新書判・平均二〇四頁・各巻本体一五四〇円

新書判・一七六頁・一五四〇円

イエスとの出会いと救い
新約聖書の人びと
本多峰子 著



ここに私がある。あなたがいる。

マグダラのマリアは娼婦でふしだらな女性だったのか。イスカリオテのユダは救われなかったのか。聖書に登場する人々を、キリスト教の伝統的解釈の縄目から解き放つてまっすぐ見つめ直したときに見えてくるものとは。その感動!

本多峰子 新約聖書の人びと シリーズ第1弾!

イエスとの出会いと救い

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

17

説教に失望してはならない！

〈評者〉 川崎公平

本書の帯に、こういうコピーが書いてある。

「『説教で満たされない……』と悩む信徒たちへ

『説教が伝わらない……』と悩む牧師たちへ

説教の語り手と聴き手のあいだに、なぜ『ズレ』や『すれ違い』が生まれるのでしょうか？ どうすれば、お互いの信頼関係を取り戻すことができるのでしょうか？ 牧師と信徒が『説教』をめぐる語り合う、対話の心得を磨くための「一章」（傍点は評者）。

「私は、このような本を求めていたのだ」と思う。語る者も聴く者も、どこか満たされないまま、実は既に〈説教〉というものに失望しているのではないか。本書はそういうわれわれの姿勢を正してくれる。「説教に失望してはならない」。「教会は、神の言葉によって生きるのだ」。

まず心を打たれたのは第一章第三節「私たちは、み言葉



説教の聴き方

語られ、聴かれ、生きられる

みことば

朝岡 勝著



を聞いた」である。オットー・ブルダーの実話に基づく小説『嵐の中の教会——ヒトラーと戦った教会の物語』を紹介しながら、「しかし私たちは、み言葉を聞いたのです。私たちの耳が開かれて、そうして私たちは聞いたのです。私たちはそれを決して忘れることができません」という言葉を引用する（三八頁）。「これこそを、本書において私たちが目指す『説教聴聞』の姿としたいのです」（三九頁）。

説教の語り手のための書物ではない。聴き手だけのための書物でもない。〈教会〉が神の言葉によってのみ生きることをお願い、そのことを信じて書かれた書物である。

「みことばの『語り手』と『聴き手』が分かれた存在でなく、教会という『一つ』の存在であること、そしてそのような『一つ』の存在として、『語り手』も『聴き手』も、本来的には神のみことばの前に『ともにある聴き手』

であるということ……の重要性を心に刻みつけておきたい
と思います」(三五頁)。

そしてそのためには、説教者が「よい語り手」になるこ
とが重要であるのと同様に、「よい聴き手」が育たなけれ
ばならない。そのためには努力が必要であると説く。

著者の考察は神学的であり、かつ教会の実践に即してい
る。「説教の聴き方」の安易なノウハウを教えてはくれな
い。バベルの塔の物語や旧約の預言者の経験を紹介するこ
ろから始まり、主イエスご自身も、使徒言行録が伝える
教会も、神の言葉を聴こうとしない罪に直面させられたこ
とを思い起こしながら、まさにその罪こそが説教が伝わら
ない根本的な原因であると説く(第三章)。罪と戦うこと
なしに、み言葉を聞くことはできないのだ。

第五章も、そのタイトルが既に興味深い。「私は何を聴
きたいのか、何を聴くべきなのか」。人間は本来、「自分た
ちの聴きたいことを聴きたい」という思いがあることを、
正直に指摘する(九一頁)。だからこそ、「本当のところ」
何を聴きたいのかと自問することが大事だ。聴き手は、
「私は、生ける神の言葉を聴きたいのだ」という、自分の
本当の飢え渇きに気づかなければならないし、語り手もま
た、そのような聴き手の願いを知り、それを信じて説教し

ないといけない。聴き手にも語り手にも、神の言葉の前で
の自己変革・自己発見を求める論考である。

第九章「説教者に寄り添う」の第三節「説教者の孤立」
も身につまされる。「牧師は孤独に耐えなければならな
いが、孤立してはならない」と言われる。厳しくもあり、ま
た慰めに満ちたものである。礼拝堂における説教者の座席
にまで話題は及ぶ(一六五頁以下)。このようなところにも
滲み出ているのは、本書全体を貫く教会に対する愛、聴
き手と語り手に対する愛である。

冒頭に引用した帯の言葉が言い当てているように、説教
の語り手と聴き手の信頼関係を構築するための書物なのだ
から、それぞれの教会で本書の読書会を試みてもよいと思
う。そこに新しく「対話の心得」が磨かれ、その信頼関係
の中で「私たちは、み言葉を聴きました」と言えるように
なったら、どんなにすばらしいことだろうか。この書物が
目指しているのは、そのような教会の形成である。日本の
教会の再生のために、本書をこれからお勧めしたい。

(かわさき・こうへい 日本基督教団鎌倉雪ノ下教会牧師)

(四六判・二一六頁・定価一九八〇円・教文館)

既刊案内（2025年2月～2025年3月）

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
山口雅弘	「生きる」をいつくしむ ——ガリラヤに生きたイエスの「共食と共生」	新書	288	1,650	ヨベル	1/28
大頭真一	焚き火を囲んで聴く神の物語・新約聖書説教篇 時が満ちて ——マルコの福音書Ⅰ	新書	224	1,430	ヨベル	1/31
大阪ケズイック・コンベンション60年記念誌編集委員会編	大阪ケズイック・コンベンション60年記念誌 感謝・継承	四六	192	1,650	ヨベル	1/31
N. T. ライト著 津村春英訳	N. T. ライト新約聖書講解4 すべての人のためのルカ福音書	四六	466	4,180	教文館	2/12
宮田光雄	〈出会い〉の旅 ——わが師 わが友	四六	298	2,200	教文館	2/12
小友聡	聖書のことば辞典	四六	186	1,980	教文館	2/25
高橋洋成	「イエスの言語」をめぐる論争史 ——古代から近代まで	A5	330	7,040	教文館	2/25
富坂キリスト教センター編	戦後日本とキリスト教 ——敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで	四六	230	2,200	新教出版社	2/14
吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎共著	平和の福音に生きる教会の宣言 ——日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説	小B6	119	990	新教出版社	2/21
宮平望	ユーモア入門 ——人生を楽しむ7法則	A5	244	2,310	新教出版社	2/21
深谷松男	二一世紀の友に贈る平和へのメッセージ	四六	234	1,980	キリスト新聞社	2/19
キリスト教年鑑編集委員会編	キリスト教年鑑 2024～2025	B5	1182	18,700	キリスト新聞社	2/20
日本キリスト教団出版局編	説教黙想アレテア叢書 創世記 1－28章	A5	264	3,520	日本キリスト教団出版局	2/21
相賀昇	相賀昇牧師 説教集 私たちのゲツセマネ	四六	256	1,760	ヨベル	3/11
東洋英和女学院大学 死生学研究所編	死生学年報 2025 ——葬送と墓制の現在	A5	232	2,750	ヨベル	3/15
金子晴勇	キリスト教思想史の例話集Ⅱ 命題集	新書	336	1,540	ヨベル	3/29
嶺重淑	NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書 9章 51節～19章 27節	A5	562	7,920	日本キリスト教団出版局	3/17
日本キリスト教団出版局編	説教黙想アレテア叢書 創世記 29－50章	A5	236	3,520	日本キリスト教団出版局	3/21

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
棟 居 正	はじめてのヨハネ福音書	A5	144	2,200	日本キリスト教団出版局	3/24
B.M. メツガー、 B.D. アーマン 著 橋本 滋男、 前川 裕 訳	増補改訂版 新約聖書の本文研究 ——伝達・改悪・回復	A5	448	6,600	日本キリスト教団出版局	3/25
丹 治 めぐみ、 左 近 豊 編	聖書からの贈り物 ——祝福・励まし・慰めの聖句集	四六	112	1,430	日本キリスト教団出版局	3/25
森島 豊、伊藤 悟編	青山学院大学総合研究所叢書 日本の教育政策と キリスト教学校 ——愛国教育と人格教育の攻防	四六	280	2,970	教文館	3/19
J. ペリカン 著 本 城 仰 太 訳	クレド ——キリスト教の伝統における 信条と信仰告白の歴史的・ 神学的入門	A5	784	9,460	教文館	3/25
兼 子 盾 夫	遠藤周作の生涯と文学 ——神学と文学の接点から見る	A5	502	3,960	教文館	3/25
島 田 恒	生涯現役が贈る人生の道標 (みちしるべ) ——企業・コンサル・大学・ NPO の現場を生きた 85 歳	四六	172	1,650	キリスト新聞社	3/22
鈴 木 文 治	非戦と抵抗の教育 ——障害児教育の源流にある もの	四六	229	2,310	新教出版社	3/24
山 本 賢 蔵	静寂者ジャンヌ ——生き延びるための瞑想	四六	512	3,300	新教出版社	3/25

書店名	郵便番号	住 所	電 話	ウェブサイト	URL	メー ル	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan.s.yoten_0530@aho.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区緋町1-13-6 エアオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaichs.uccj.jp/	info@sendaichs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区銀座2-282 千葉リゾナントタワービル	043-236-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp/	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbookss@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://naishindo-books.jimdo.com/	taisshindo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新宿区西馬場2-3-18/MACのビル(通称新門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区駒込4-44栄通町ビル(新内外務省前)	03-3260-5663	03-3260-5637	http://biblehouse.jp	tokyo@nikkrian.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biblehouse.jp/yokohama-cs/index.html	sksch@nva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋東区大田町316 味ヶ丘1棟(新緑教会)	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunshala.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
6/2よりバイブルハウス京都	606-0007	京都市左京区倉敷玉田町23 日本基督教団平安教会内	075-211-6675	075-211-2834	http://web.yto-hetu.jp/people/kijidan/	kijidan@inbox.kyoto-hetu.or.jp	01010-2-594
6/2よりバイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌町267 チヤムビル2F	072-255-4970				
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacs.web.fc2.com/	ochinbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖徳社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町21-18	072-254-2233	共用		sekaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkrian.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hselbun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-2-3	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/netsjane_1007/index.html	sksch@ddokidokilne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハルルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-halerya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacs.net	info@okinawacs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日販営業部 Ⅱ 03-3260-5670 にご連絡ください。

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞2025



主催 キリスト教出版販売協会

悲しみの向こう

希望の扉を開く言葉366

片柳弘史 著



定価990円

教文館

清光書店 阿部文字さん

その日その日に開いてみると、自分自身が悲しみにうちひしがれている先に光が見えてくるような書籍です。

オススメ

2024年1月～12月に
出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員が
大賞を選出します。

ノミネート 11作品

(タイトル50音順)

価格は10%税込

月曜日の復活

「説教」終えて日が暮れて
塩谷直也 著



定価1,540円

日本キリスト教団出版局

教文館キリスト教書部 吉園選也さん

説教者の心の動きを丁寧に描き出し、励ます良書。単なるハウツー本でなく、共感と愛とで全編が満ちている。

オススメ

コミュニティで 支える"心の育ち"

being《存在》を
大切にすること

田中 哲 著



定価1,430円

いのちのことば社

恵泉書房 西脇協広さん

児童精神科医の著者が、児童を見てきて「心の育ち」をテーマに著された本。人は、育て、育てられる。そのためにコミュニティが必要。どのような年齢層にとっても有益、有用なヒントが詰まっています。

オススメ

信仰生活ガイド 祈りのレッスン

柳下明子 編



定価1,540円

日本キリスト教団出版局

京都ヨルダン社 堀之内真々さん

神との対話としての祈りの本質を学び、心から自分らしく祈ることができるようになる1冊。

オススメ

信仰生活ガイド 苦しみの意味

柏木哲夫 編



定価1,540円

日本キリスト教団出版局

キリスト教書館ハレルヤ 松永希美子さん

苦しみをどう受け入れ、どのように乗り越えるか。苦しみを修験することで、自分自身の内面と向き合い、どのような向き合い方ができるか考えるヒントになる本。

オススメ

聖書のお話を 子どもたちへ

小見のぞみ 著



定価1,540円

日本キリスト教団出版局

横浜キリスト教書館 高橋友彦さん

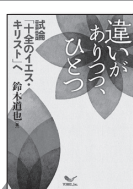
教会学校や幼稚園などのキリスト教教育に携わる方々への実践的な提案・手引きを平易な言葉で綴った良書。

オススメ

違いがありつつ、 ひとつ

試論「十全の
イエス・キリスト」へ

鈴木道也 著



定価3,080円

ヨベル

善隣館書店 佐々木章さん

自国第一主義、排外主義の大声が世界へ広がりがつある中、キリスト教の歴史もまた、論争、分裂を繰り返してきた。著者は静かに、しかし情熱的に訴える。「違いがありつつ、ひとつ」という道を歩んでいこう。

オススメ

70歳からの キリスト教

聖書でたどる人生の旅

大澤秀夫 著



定価1,540円

日本キリスト教団出版局

神戸キリスト教書館 川上二郎さん

キリスト教会、ひいては日本という国が高齢社会になっています。旧約新約の、聖書の人物や出来事を通して「終わりに向きあうこと」が信仰的に語られます。やさしいタッチで書かれた良書だと思います。

オススメ

不安と孤独の 処方箋

病の教訓、聖書のヒント

石丸昌彦 著



定価2,640円

日本キリスト教団出版局

横浜キリスト教書館 平岡信司さん

高齢化、核家族化の中に生き不安な日々を送る私たち、こころの健康を守るためにはどうしたらいいのか、クリスチャンで精神科医である著者がヒントを与えてくれる。

オススメ

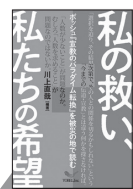
私の救い、 私たちの希望

ボッシュ「宣教の
パラダイム転換」を
被災の地で読む

川上直哉 編著

定価1,980円

ヨベル



エッセイの木 大越美穂さん

ラジオ番組（日本FEB）を聴いた時から「いつか本になってほしい」と思っていました。現場からの言葉に共感します。

オススメ

わたしの 聖書物語

神さまの大いなる計画

N・T・ライト 著

ヘレナ・パレス・ガルシア 画



定価3,960円

日本聖書協会

沖縄キリスト教書館 川上直美さん

創世記からヨハネの黙示録までの140の物語を通して神様の偉いなる計画への理解が深まっていく聖書物語。子どもと大人を問わずおすすしたい1冊です。

オススメ

キリスト教書店大賞フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

「いいね!」をクリックして
最新情報をGET!

QRコードで簡単アクセス! ➡



福音と世界

2025年6月号

特集Ⅱ パレスチナを〈見る〉わたしたち

寄稿者Ⅱ 守中高明 友常勉 五井健太郎

金在源、北川真也、彫真悟

短期連載 わたしたちキリスト者は天皇制をどう考えるべきか (石田学)

連載 ばやし牧師のさすらい説教録 (富田正樹) /

異端者の世界航海 (福岡揚) / 証言としての旧約聖書 (田島卓) / 新約釈義 ルカ福音書 (山崎ランサム和彦、八木重吉の聖書 (今高義也) 他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

先日、「カーリングの町」と呼ば

れる北海道の小さな町の特集番組を観た。町民たちの手作りのリンクから始まり、町出身の選手を中心とした日本代表チームが世界で活躍するまでの物語を追う番組だったが、中でも最初に町にカーリングを持ち込んだ人物の言葉が心に残った。「人生で大切なのは胸がキュンとなることだ」。

いいこと言うなあ、とつい感動してしまい、それから大

学時代の恩師のことを思い出した。卒論の指導を受けていたとき、その恩師は、「論文のテーマの一番の決め手は、自分がときめくかどうかだ」と語っていた。学問的・社会的に重要か、自分の力量に合っているかなども大事な要素だが、何よりも心が動くかどうか。自分の中から意欲が湧

予告

本のひろば

2025年7月号

本・批評と紹介

(巻頭エッセイ) 『トマス・アクイナスと「真作ではない著作」』松村良祐 (特集) 「信仰が折れそうになるときに読む」三冊の牧師も悩んでいます」上林順一郎 (書評) B・M・メッガー、B・D・アーマン著『増補改訂版 新約聖書の本文研究』、説教黙想アレティア叢書『創世記29-50章』、金子晴勇著『キリスト教思想史の例話集Ⅱ 命題集』他

いてくるようなテーマでなければ、長い論文を書き上げることはとてもできない。卒論に限らず、人生で何かを始めるときの指針となる教えだったように思う。

仕事柄、人文系の研究書を読む機会が多いが、読みながら著訳者のひとかたならぬ熱意に圧倒されることがある。調査の綿密さや論じられる主張、文章の書き方などから、この人にとってこのテーマが本当に大切なんだな、と思わされるのだ。書き手が強く心動かされて研究に没頭した跡がそこにあるのかもしれない。

誰かの胸がキュンとして、その対象を知りたい、伝えたいという衝動が生まれて書き始め、その文章にまた心を動かされた人が書籍の形にして売り出す。堅苦しいイメージの研究書も、誰かのときめきの結果なのだと思えば、やさしく身近な存在に見えてくる気がした。

(豊田)

4月刊行の
好評既刊!

日本キリスト教神学小史

教義学の視点から

近藤勝彦



近藤勝彦

日本キリスト教神学小史

教義学の視点から

●四六判・218頁・定価2,420円

植村正久、高倉徳太郎、熊野義孝、北森嘉蔵、大木英夫——私たちは彼らの神学の何を批判し、何を継承すべきか? 日本を代表する5人の神学者・牧師の教義学の確立と展開に注目しながら考察する。

ゴッホの宇宙

正田倫顕



観る者の魂を揺さぶる強烈なエネルギー——ゴッホを独特の絵画表現へと駆り立てたものは一体何だったのか? ゴッホを宗教的人間として捉え、作品と手紙の手堅い分析からその絵に示された世界観を解き明かす。画家ゴッホの深層に迫る、ダイナミックで犀利な思索!

●A5判・230頁+口絵48頁・定価3,080円

近藤存志

キリストの肖像

ラファエル前派と

19世紀イギリスの画家たち

ミレイ、ハント、バーン・ジョーンズをはじめ、英国ヴィクトリア朝中期に活躍した画家たちはどのようにキリストを描き、自らの信仰を表現したのか。

●A5判・172頁+口絵32頁・定価2,750円

好評既刊!

5月の重版

なぜ子どもは神を信じるのか?

J・L・バレット

人間の宗教性の心理学的研究

松島公望監訳 矢吹理恵・荒川歩編訳



幼い子どもはなぜ、親が無神論者でも熱心に神を信じるのか? 見えない天使や悪魔を信じるのが、心理学や進化の観点で合理的と言えるのはなぜか? 宗教が人生に与える影響を示し、「信じる」との価値を問い直す、最新の研究。

●A5判・272頁・定価2,970円

全国連合長老会日曜学校委員会編 関川泰寛解説

子どもと共に学ぶ 新・明解カテキズム

●四六判・224頁・定価2,090円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3561-5549 (出版部直通) 〈星・図書目録〉

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は (e-shop 教文館)

<http://shop-kyobunkwan.com/> まで!



新教出版社

〒112-0014 東京都文京区関口 1-44-4 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP: http://www.shinkyō-pb.com, email: eigyo@shinkyō-pb.com

非戦と抵抗の教育

障害児教育の源流にあるもの

教育の原点を問う

鈴木文治著

(すずき・ふみはる氏は日本基督教団牧師、養護学校元校長)

差別が強かった富国強兵の時代から、障害児教育を志す教師たちがいた。彼らのキリスト教的背景を辿り直し、人を有用性で計る現代の教育に問い直しを迫る。

四六判・定価2310円



静寂者ジャンヌ

生き延びるための瞑想

山本賢蔵著

(やまもと・けんどう氏は元NHK外信部記者)

ルイ・十四世の時代を生きた一人の女性の生涯と思想に迫る。彼女は「異端の女性神秘家」として闇に葬り去られてきたが、その生涯は、男性支配のミソジニー社会の中で自己を貫き通した鮮烈な抵抗だった。日本で初となるグイヨン夫人の本格評伝。柳田邦男氏推薦。

四六判・定価3300円



自分自身と群全体とに気を配りながら

松本雅弘著

(まつもと・まさひろ氏はカンバーランド高座教会の元牧師)

主から託された教会に37年間仕えた牧師の思いがほとばしる説教と論考。併せて3本のインタビューを収録し、説教の方法、牧会との関係、神学との切り結びなどについて牧師の率直な声を引き出す。

A5判・定価2200円



倫理

DBW版新訳

キリスト教倫理の可能性!

大反響

ディートリヒ・ボンヘッファー著／宮田光雄監訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によってつい未完に終わった倫理学。新版全集第6巻(DBW6)は奇跡的に亡失を免れた草稿を徹底的に校訂し、膨大な脚注を付して、成立順に再構成。著者の構想を余すところなく明かにした。待望の完訳。

四六判・定価6930円



戦後日本とキリスト教

富坂キリスト教センター編

敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで

四六判・定価2200円

敗戦後の急激な社会変革にキリスト教界はどう対応したのか。占領期の宗教政策、キリスト教ブーム、共産党問題、在日コリアン教会、沖縄の土地闘争、キリスト教女子教育などに着目。

寄稿者＝大久保正禎、落合建仁、寒河江健、李相勲、福山裕紀子、渡邊さゆり、原誠、戒能信生

本のひろば.com



本ひろば 第八一〇号 二〇二五年六月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口一四四一四 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3311-6510 振替00170-511679
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3311-6510

定価七八円(税抜七一円) 送料共